

■ 会長挨拶

デジタルとアナログ、理論と実践。日本と世界。これらの健全なコンフリクトの中から、知の世界とその実践は発展してきました。それを組織として担うのが日本ナレッジ・マネジメント学会です。

日本ナレッジ・マネジメント学会は極めてユニークな学会です。学会員は企業の第一線で活躍する方と最先端の研究を行う学術研究者から構成されます。理論を磨き上げると共に、それをいかに実践につながるかを重視します。ガバナンスも組織運営も企業の第一線で活躍する方と最先端の研究を行う学術研究者のチームワークで行われます。

日本ナレッジ・マネジメント学会はオープンで、フラットで、そして何よりも楽しい場 (intellectually fun!) です。知とその実践の最先端を切り開くために、より多くの方が会員になり、日本を、世界を、より良い社会にできればと願っています。

ぜひ、このような
エキサイティングな場
にご参加ください。



日本ナレッジ・マネジメント学会
会長 一條和生

■ ミッション

○人間の持つ知識を総動員してナレッジ・マネジメントの研究とその実践をはかることにより、社会的課題の解決を図り、社会に貢献する

■ 2030年にむけたビジョン

○ナレッジ・マネジメントの研究と実践を志す個々人、組織が集う、オープンでダイナミックに進化するナレッジ・マネジメントのプラットフォームとなる。
○このナレッジ・プラットフォームを通じて、デジタルとアナログ、理論と実践、日本とグローバルのシンセシスを通じて社会的課題の解決に貢献する。

■ バリュー

○イマジネーション：学会員は互いの想像力を磨き上げる
○インクルーシブネス：学会員は異なる意見を退けず、異なる意見の統合から新しい価値を生み出す
○インテグリティ：学会員は高潔であり、公共善のために活動する
○オープンネス：学会員は環境に対して常に開かれている
○エガリタリアン：学会員は権威主義とは無縁で、全員がフラットで平等につながり、心理的な安心のもとに活動する

■ 主な役員一覧 (2025年2月3日現在)

会 長
一條 和生 (一橋大学大学院教授) * 理事長を兼務

評議員会議長
飯島 彰己 (三井物産(株) 代表取締役会長)

評 議 員
安達 一彦 ((株)インテリジェントウェイブ 創業者)
佐久間 万夫 ((株)Eパートナー 代表取締役社長)

詳細な役員一覧はこちら

<https://kmsj.org/intro/officer/>

■ 入会のご案内および会員種別

当学会は、ナレッジ・マネジメントに興味を持ち、研究意欲を有する法人/個人であれば、特に入会資格を制限しておりません。志のある皆様のご入会をお待ちしております。

法人会員：年会費 一口につき100,000円 (入会金なし)
個人会員：年会費 8,000円 (入会金なし)

いずれも「入会申込書」に必要事項をご記入の上、下記の当学会事務局宛まで郵送下さい。登録内容通知書ならびに学会誌をご送付いたします。

⇒ご入会についての詳細はこちらをご覧ください。

<https://kmsj.org/intro/application/>

■ 当学会へのお問い合わせ

日本ナレッジ・マネジメント学会事務局
〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町 518 司ビル 3F
国際ビジネス研究センター 内

TEL 03-5273-0473
E-mail kmsj@ibi-japan.co.jp



⇒当学会HP

トップページ <http://kmsj.org/>



日本ナレッジ・マネジメント学会

AIなどの情報技術の進展に加えて、Covid-19による新たな常態へのシフトは、グローバルビジネスや社会に大きなインパクトを及ぼしています。

このようなVUCAの時代において、人類社会や地球環境の持続性に貢献する新たなKMの理論と実践が不可欠です。

本学会はKMで世界と繋がり
価値共創を促進するミッションを
知の創造の場を通して果たします。

■ 学会誌の発行による研究と実践の推進

当学会は年に1度学会誌を発行しています。

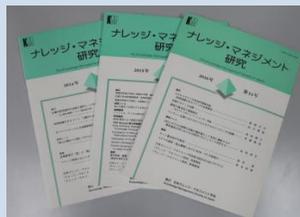
会員が投稿でき、投稿した原稿は、編集委員会のレフェリー2名による査読審査を受けます。投稿ジャンルは、論文、ケース・スタディおよび研究ノートです。

院生はじめ研究の実績を挙げていただくためのプロセスが整っています。学会に所属し、研究部会での発表、年次大会での報告、そして学会誌に研究成果を投稿でき、またこれらの研究成果の発表に伴い適切な助言やコメントが得られます。

論文とは、ナレッジ・マネジメントに関して、理論的、実証的に本学会の学術研究として相応しいオリジナルな研究成果をまとめたものであり、問題提起・方法論・分析結果とその理論的考察・明確な結論を備えていることが必要です。

研究ノートでは、先行研究を多数引用し、それらの成果や問題点について解説したもの、または、独自の調査やオリジナルな個別事例についての結果・報告です。ナレッジ・マネジメントの研究を進めていく上で資料的価値を認められることが必要です。

なお優秀な論文は、英文電子ジャーナルJJM誌への掲載を推薦しております。



■ 他学会、他団体との交流等

当学会では、さまざまな国内外の関連学会および関連団体等との積極的な交流を図っております。

経営関連学会協議会
<http://jfmr.org/>

KMGN (Knowledge Management Global Network)

日本学術会議協力学術研究団体

■ 第27回年次大会(最新の大会履歴をご紹介致します)

大会日時: 2024年12月1日(日)9:20(9:00開場)～17:00
 テーマ: ナレッジ・マネジメントとAIの新局面～具体的な活用に向けて
 ◇年次大会のプログラム
 立教大学池袋キャンパスとZoom 配信のハイブリッドで開催

【午前の部】

9:00開場 9:20大会開始 開会挨拶: 一條和生氏(本学会会長)
 第1部: 講演 司会進行 穂積 義剛氏(本学会理事)
 9:30-10:20 基調講演: 三宅 陽一郎氏 立教大学大学院人工知能科学研究科 特任教授 テーマ:「エージェントAIによるナレッジ・マネジメント」
 第2部: パネルディスカッション 10:20～12:00 テーマ:「ナレッジ・マネジメントとAIの新局面～具体的な活用に向けて」
 司会・コメンテーター: 中鉢 欣秀氏(大会実行委員長、東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科教授)

【午後の部】13:00～17:00

研究発表(自由論題)(20分報告+10分質疑+10分会場質疑)
 トラックA: 研究発表1(13:00-13:40) 論題:「SECIモデル再考:小さく回す知識創造スパイラル」大崎 功一氏
 研究発表2(13:50-14:30) 論題:「ナレッジプロデューサーとしてのミドルマネージャー支援:MIMIGURI「知識創造室」の事例の考察」瀧 知恵美氏、西村 歩氏
 研究発表3(14:40-15:20) 論題:「味の素ヘルシーサプライ(株)におけるC-Hub推進活動のご紹介」向井 計都氏
 研究発表4(15:30-16:10) 論題:「信頼を媒介にした地域シェアリングの循環型ビジネスモデル」桂 信太郎氏、西原(廣瀬)文乃氏
 研究発表5(16:20-17:00) 論題:「部署横断的技術伝承を実現する動画活用モデルの提案-製薬企業における事例研究」上田 教弘氏

トラックB 研究発表6(13:00-13:40) 論題:「トランザクティブ・メモリ・システムを媒介とした他者理解による知識共有の促進」佐藤 隆広氏、西中 美和氏
 研究発表7(13:50-14:30) 論題:「SFプロトタイプ web アプリケーションの各フェーズにおける議論分野の偏りについて」馬込乃愛氏、大澤博隆氏
 研究発表8(14:40-15:20) 論題:「生成AI創作からイノベーションのための創発まで:慶應義塾大学サイエンスフィクション研究開発・実装センターの取り組み」大澤 博隆氏
 研究発表9(15:30-16:10) 論題:「従業員の知識共有行動とウェルネス経営実践の関係性」渡邊 真知子氏、白肌 邦生氏
 研究発表10(16:20-17:00) 論題:「製品販売を通じた知識の移転:ヘアケア美容品企業の事例分析」山岸 未季氏、白肌 邦生氏

閉会 17:00



■ 研究部会のご紹介

日本ナレッジ・マネジメント学会では複数の研究部会がそれぞれにテーマを持ち、特色のある活動を行っています。お気軽にご参加ください。Facebookなどで発信もしています。

⇒研究部会の詳細はHPをご覧ください。
<https://kmsj.org/research-group/>

研究部会の一覧

部会名	部会長名	代表世話人名
東海部会	栗本 英和	大西 幹弘
知の創造研究部会	植木 英雄	植木 真理子
実践ナレッジ・イノベーション研究部会	西原 文乃	穂積 義剛
ソーシャルメディア研究部会	荒木 聖史	清水 美也子
新産業革命研究部会	田原 祐子	—
ISO等標準化研究部会	齋藤 稔	—
実践SDGs研究部会	高山 千弘	矢澤 洋一
アメリカ部会	岡田 依里	—

■ 東海部会



「有力企業が集積する東海地区に根ざした実践的ナレッジ研究」として、鋭意研究活動を進めています。なお現在、活動の拠点は名古屋近辺に置いています。

■ 知の創造研究部会



創設から17年目を迎えた知の創造研究部会では、先進企業における知の創造がどのような要因や条件により促進されるのかを実践事例等より明らかにします。そこで企業内外の環境変化に適応した知の創造と経営革新のプロセスに関して先端事例研究等の発表で課題を捉えて対話をします。

■ 新産業革命研究部会



一つのテーマに絞らず、AI、RPA、IoTを含め、「ナレッジマネジメント＆新たな分野・テーマ(新しいもの～これまでは組み合わせとしてなかったもの、古典的・普遍的など様々なもの)」という組み合わせで、毎回テーマを取り上げ、新たなナレッジマネジメントの可能性を問い発信していきます。